

1 学校関係者評価委員会の総評

コロナ禍の中、児童も保護者も教職員も長い自粛生活でストレスを発散する場所を失い、我慢の1年であった。感染対策をしながらの活動が多く大変であったと思うが、縮小しながらも行事が実施できたことは良かった。

豊かな心の育成については、「学校が楽しい」と答える児童が100%を目指して、各学級が好ましい人間関係づくりや学級集団づくりに取り組んでいる。アンケートでは、児童の90%、保護者の94%から肯定的な回答を得ている。今後さらに残りの10%の児童への対応を図り、100%を目指したい。

学力向上については、校内研修で国語科を中心とした授業改善に取り組んでいる。根拠をもとにした確かな読みを目指し、さらに授業改善を図ると共に、つまずきが見られる点を分析して、重点的に補強していきたい。

体力の向上については、体力テストも実施されなかった為、詳細な比較はできない。しかしながら、臨時休校期間があり、その後も接触を避ける等、種目等に制限があったことを考えると低下の要因の方が多いと感じる。2学期後半からは、持久走大会・縄跳び大会に絡めて行った業間運動により、運動の機会を確保することができてきた。今後も運動量の確保を図ると共に、運動を通して、チャレンジ精神や運動に親しむ心も育てていきたい。

信頼される学校づくりについては、子供を中心に、学校・保護者・地域が連携を深めるために、学校だよりの地域への回覧や、ホームページでの情報発信を心がけている。コロナの影響で、スクール・ボランティア活動は、読み聞かせのみとなってしまった。次年度も感染状況を見ながら、学習支援ボランティアの拡充を図っていききたいと考える。

2 分野別評価

分野	学校の取組に関する評価と今後の課題
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 休校や様々な生活上の制限があり、大変な一年であったと思う。その中で学校生活が楽しいと答えた児童が90%を超えたことをうれしく思うと同時に、先生方の努力があったと思う。 豊かな心は、学校生活における経験と読書によって育まれると思う。毎週の読み聞かせや、読書目標も8割近く達成している状況が素晴らしいと思う。 読書目標の達成割合に比べ、アンケートで「進んで読書に取り組んでいる」と答えた児童の割合が低いのが残念だ。読書の幅を広げることを含め、啓発活動を行ってほしい。 自己有用感を育てることは、生きていく上で非常に大切なことであると思う。ぜひ、今後も継続して行ってほしい。
学力・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 国語科を核とすることで、理解力を身につけられ、他の学習をする上でもとてもよいと思う。 休校等により授業時間の調整が大変であったろうと思うが、駆け足授業になっていなかったか心配である。 家庭学習には、学校からの課題だけでなく、興味をもったことを自分で調べたりする学習があるかと思う。子どもたちが更に深く知りたくなるような言葉かけをしていただけたらと思う。 コロナ禍ではあるが、ミニ運動会、持久走大会、縄跳び大会等工夫して実施され、子どもたちも意欲的に練習に取り組むことで体力向上に努められたと思う。 アンケートから、学習にも体力向上にも大変意欲的に取り組む姿が目に見えよう。学力向上は一つの目標だが、それよりも意欲を失わずに勉強や運動に取り組む心、学校に行きたいという気持ちをもてる心を大切にしたいと考える。
信学頼校さ・れ家庭学・校地づ域くとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観もほとんどなかった為、学校での様子を知ることができずとても残念であった。 ボランティアの受け入れも厳しい状況の中、読み聞かせをやっていただき良かったと思う。 コロナの影響で、コミュニティーとの連携も十分にできなかった。健康祭りやカルタ取り大会が中止になってしまったことが残念だ。そんな中、最後の「野田かるた」の制作が行われ、子どもたちにも、よい思い出になったと思う。 野田っ子まもローズの方々の尽力により、子どもたちが安全に通学できていることに感謝したい。1年後の義務教育学校のスタート時には、徒歩通学の児童にヘルメットを着用させてはどうか。 登下校時に、通学路の近くで働く農家の方に一人が挨拶すると次々と他の子どもも挨拶する光景をよく見かける。高学年の児童が率先して挨拶をしているのが良い。これからも続けてほしい。 以前挨拶が課題であるとのことであったが、今回は良い回答が増加しており、これも連携の成果ととらえることができるのではないかと。 HPを利用した学校からの情報が、常に更新されており、地域や保護者の学校理解に役立っていると思う。